

世 界 史

注 意

1. 問題は全部で10ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. 解答用紙(その1)はマーク・シートになっている。HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答がイのとき)

1	<input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
---	--

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

〔 I 〕 以下の文章(A)、(B)は中世における東欧の歴史に関する概説であり、(C)はそれと関係した史料(1212年の特許状)の一部である。それぞれの文章をよく読み、各設問に答えなさい。答えは解答欄に記しなさい。(解答用紙その1を使用すること。)

(A) カルパティア山脈一帯を居住地としていたスラヴ諸族は、6世紀になるとゲルマン諸族の後を受けて東部ヨーロッパ各地に移動した。東スラヴ人が定住していたロシアでは9世紀に北方から移動してきたノルマン人が(①)国、次いで(②)公国を建て、同化した。同公国は1000年頃、(③)の時代に最盛期を迎えた。彼はギリシア正教に改宗し、ビザンツ風の専制君主制を導入した。その後諸侯が分立して国内が分裂し、13世紀には南ロシアに成立した(④)国に服属することとなった。15世紀にはモスクワ大公国が急速に発展し、イヴァン3世は東北ロシアを統一し、モンゴルの支配を脱した。彼の孫(⑤)の時代に中央集権が強化された。

問 1 空欄①～⑤それぞれに最も適切な語句を以下の選択肢の中から一つ選びその記号をマークせよ。

〔選択肢〕

- | | |
|--------------|---------------|
| (イ) ノヴゴロド | (ロ) ドニエプル |
| (ハ) ピョートル1世 | (ニ) キプチャク・ハン |
| (ホ) イヴァン4世 | (ヘ) エカチェリーナ2世 |
| (ト) モスクワ | (チ) イル・ハン |
| (リ) チャガタイ・ハン | (ヌ) キエフ |
| (ル) ヴォルガ | (ヲ) ウラディミル1世 |
| (ワ) ニコライ1世 | |

問 2 下線部 a と関連して、この人物が用いた称号のもととなった古代ローマ皇帝の称号はどれか、次の選択肢の中から一つ選べ。

- | | |
|-------------|------------|
| (イ) インペラトール | (ロ) プリンケプス |
| (ハ) アウグストゥス | (ニ) カエサル |

(B) バルカン半島に定着した南スラヴ人のうち、セルビア人はギリシア正教に改宗し、ビザンツ帝国に服属したが、12世紀にセルビア王国を建てた。他方、(⑥)人とスロヴェニア人はともに800年頃フランク王国に服属してカトリックに改宗した。セルビア人は14世紀前半にバルカン北部を統合したが、同世紀末以降は(⑦)の支配下に置かれた。他方、西スラヴ人のうちポーランド人は10世紀頃建国し、14世紀前半(⑧)大王の時代に繁栄した。(⑨)人は13世紀に国家を統一した後、14世紀にはポーランドとの間に連合王国を形成し、15世紀初頭には(⑩)の戦いでドイツ騎士団を破った。(⑪)人は10世紀にベーメン王国を統一したが11世紀以降、(⑫)に編入された。西スラヴ人は全体としてカトリックに改宗し、西方ラテン文化圏にはいった。

問 3 空欄⑥～⑫それぞれに最も適切な語句を以下の選択肢の中から一つ選び、その記号をマークせよ。

- | | |
|------------|--------------|
| (イ) クロアティア | (ロ) ハプスブルク帝国 |
| (ハ) リトアニア | (ニ) マンジケルト |
| (ホ) チェック | (ヘ) 神聖ローマ帝国 |
| (ト) カジミェシュ | (チ) ワールシュタット |
| (リ) エストニア | (ヌ) ブルガール |
| (ル) ビザンツ帝国 | (ヲ) タンネンベルク |
| (ワ) オスマン帝国 | (カ) シャープール1世 |
| (ヨ) アルバニア | (ク) レオポルド2世 |

問 4 下線部bと関連して、ポーランド女王と結婚して連合王国を形成した大公は誰か、次の選択肢の中から一つ選べ。

- | | |
|---------------|----------------|
| (イ) マーチャーシュ1世 | (ロ) ヤゲウォ(ヤゲロー) |
| (ハ) イスマーイール1世 | (ニ) バヤジット1世 |

(C) 「余は(⑬)のあらゆる人々が(⑭)帝国に対して忠実な奉仕を行ってきたこと、彼らの英明なる国王オタカルが余を皇帝に選んだこと、余の選出^cを一貫して支援したことに鑑み、彼を国王として定め、これを確認する。余はこの王国を彼と彼の後継者たちに永遠に譲渡する。そして彼らによって国王に選ばれた者は、然るべき方法でレガリアを受け取るために余のもとに来ることを望む。余が通告をした場合を除き国王はいかなる余の宮廷会議にも出席する義務を負わない。余あるいは余の後継者が(⑭)で戴冠することになった場合に、300名の兵員を余のもとに派遣するか、300マルクを支払うかは、上記の国王の判断に委ねるものとする。」

問 5 空欄⑬、⑭それぞれに最も適切な語句を次の選択肢の中から一つ選べ。

- | | |
|-----------------|-----------|
| (イ) ローマ | (ロ) ボヘミア |
| (ハ) ハンガリー | (ニ) ビザンツ |
| (ホ) コンスタンティノーブル | (ヘ) ポーランド |
| (ト) ウィーン | |

問 6 下線部cと関連して、ここで“余”とは誰のことか、次の選択肢の中から一つ選べ。

- | | |
|--------------|--------------|
| (イ) フリードリヒ1世 | (ロ) ハインリヒ4世 |
| (ハ) オットー1世 | (ニ) フリードリヒ2世 |

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。(解答用紙その1を使用すること。)

1880年代のイギリスでは、アイルランドにおける自治要求の高揚に直面して、自由党の(①)内閣が、アイルランド自治法案を1886年に提出するに至った。それに先立ち1884年には(②)という社会主義団体が結成され、同年には(③)によって有権者が拡大されたために、労働者の政治的発言権が高まった。1900年には(④)が結成されて、これが1906年に(⑤)と改称された。(⑥)のアスキス内閣は、1911年に(⑦)を制定して社会政策を展開した。同内閣はまた(⑧)を定めて、下院の優位を確立させた。

フランスでは、普仏戦争でやぶれた屈辱をはらそうとして、ドイツへの報復気運が高まり、これと当時の(⑨)への反対運動がつながって、1887～89年に(⑩)がおきて、政局は危機におちいった。1894年には、(⑪)系の軍人がドイツのスパイ容疑で告発される(⑫)が起きたが、文学者(⑬)などの尽力で、その容疑は晴れて(⑨)は危機を脱した。

1880年代には、イギリスとフランスは国外にも眼を向け、アフリカなどに広大な植民地帝国を築いた。イギリスはアフリカにおいて(⑭)と(⑮)を結ぶいわゆる縦断政策をとった。

フランスのアフリカにおける植民地創設は、1830年5月の(⑯)によるアルジェリア出兵に端を発する。1880年代のアフリカにおいて、イギリスの最大の競争者となったのはフランスであった。フランスは、1881年に(⑰)を保護領とし、1890年代にはサハラ砂漠以南の広大な地域を獲得してフランス領西アフリカとした。その西アフリカから、アフリカ北東岸の(⑱)やアフリカ南東の島マダガスカルへの連絡をめざした横断政策をとった。両国の政策は(⑲)のファショダでぶつかり、両軍のにらみ合いが起こった。結局フランスが譲歩して、(⑳)に英仏協商を結び、両国のアフリカにおける勢力圏をとりきめた。

問13 空欄⑯に当てはまる語句としてもっともふさわしいものを一つ選んで、記号をマークせよ。

イ シャルル 8 世

ロ シャルル 9 世

ハ シャルル 10 世

ニ ナポレオン 3 世

問14 空欄⑰に当てはまる語句としてもっともふさわしいものを一つ選んで、記号をマークせよ。

イ アシャンティ王国

ロ ダホメ王国

ハ エチオピア

ニ チュニジア

問15 空欄⑱に当てはまる語句としてもっともふさわしいものを一つ選んで、記号をマークせよ。

イ オレンジ自由国

ロ チュニジア

ハ ジブチ

ニ カメルーン

問16 空欄⑲に当てはまる語句としてもっともふさわしいものを一つ選んで、記号をマークせよ。

イ エジプト

ロ スーダン

ハ エチオピア

ニ モロッコ

問17 空欄⑳に当てはまる語句としてもっともふさわしいものを一つ選んで、記号をマークせよ。

イ 1899 年

ロ 1902 年

ハ 1904 年

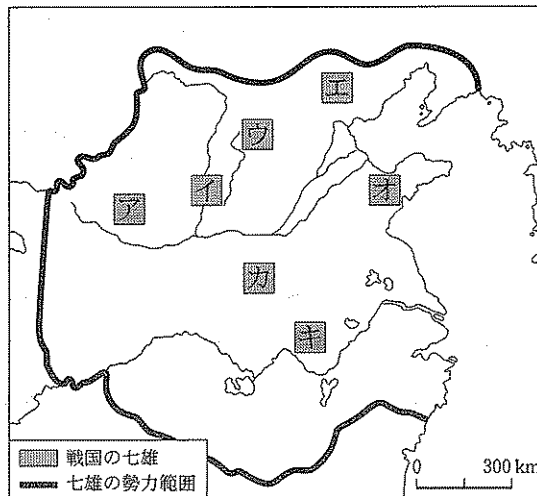
ニ 1907 年

〔Ⅲ〕 以下の文章を読んで問いに答えなさい。答はすべて解答欄に書きなさい。(解答用紙その2を使用すること。)

紀元前六世紀から前五世紀ごろ、インドと中国では諸国の対立と混乱を背景に、深い思想的思索が見られ、偉大な宗教が成立するに至った。仏教と儒教の成立である。ガウタマ・シッタールタ(仏陀)と孔子がほぼ同じ時代に出現したことは、世界史上の興味深い偶然の一致である。その後、仏教はインドからアジア各地に伝播し影響を与え、儒教は広大な中国的世界とその周辺を方向づけることとなった。

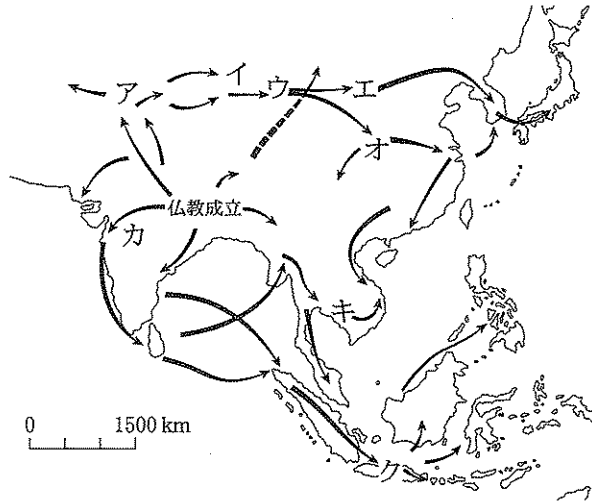
問1 前600年ごろから、ガンジス川流域では十六大国といわれる都市国家群が並存していたが、最終的には(a)国が、(b)国を併合して北インド最大の勢力となった。この時期(c)朝のペルシアがインダス川西岸に進出し、(a)国と接触した。a, b, c, に当てはまる語句を記入せよ。

問2 孔子の生きた春秋時代には、春秋の五覇とよばれる有力諸侯が競い合い、続く戦国時代には戦国の七雄とよばれる強国が台頭した。戦国の七雄の中で、中国の統一を成し遂げた国家の名を記入しなさい。また、この国家の当初の位置を以下の地図から記号で答えよ。



問 7 仏教の伝播は各地に残る仏教遺跡から知ることができる。以下の仏教遺跡の地図上の位置を、記号で答えよ。

- a パーミヤン b 敦煌 c 雲 崗
 d アジャンター e ボロブドゥール



仏教の伝播と遺跡

